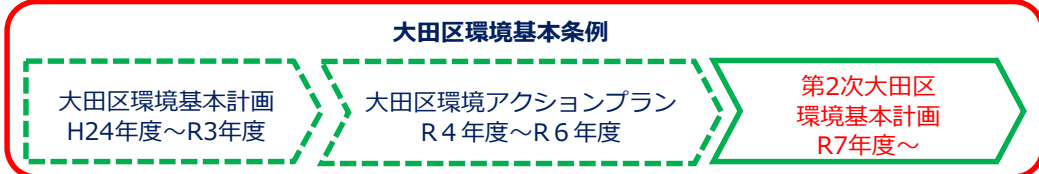


# (仮称) 第2次大田区環境基本計画策定について

## 1 計画策定の背景・目的

(1) 背景  
緊急一時的な計画である「大田区環境アクションプラン」の後継計画策定が必要である。



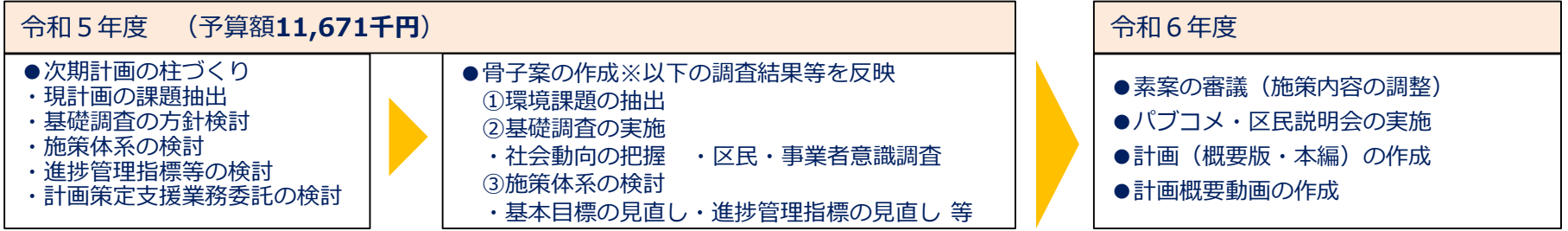
(2) 目的

- ・区の施策を環境の視点から整理・体系化するとともに、区が策定する個別計画や事業等に対して、環境の保全に関する基本的な方向性を示す。
- ・策定にあたっては、目まぐるしく変化する社会情勢を注視し、区が、抱える環境課題や区民・事業者ニーズの適切な把握を行い、環境課題解決に向けた道しるべとする。

## 2 計画の体系・見直しの視点

基本目標	包含計画	課題・見直しの視点等
基本目標A 環境課題の解決に向けたパートナーシップの推進		<ul style="list-style-type: none"> <li>・区民等・事業者との連携の視点強化</li> <li>・産業分野との連携</li> </ul>
基本目標B 気候変動緩和策の推進	地球温暖化対策第21条に基づく「地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー消費量削減目標、再生可能エネルギー導入目標の設定</li> <li>・指標の検討</li> </ul>
基本目標C 自然共生社会の構築	生物多様性基本法第13条に基づく「生物多様性地域戦略」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年3月閣議決定の生物多様性国家戦略の適切な反映</li> <li>・区の事業を生物多様性の視点から体系化し適切な見直しを実施</li> </ul>
基本目標D 快適で安全な暮らしの実現		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ローカルSDGsと進捗管理指標の見直し検討</li> </ul>
基本目標E 循環型社会の構築		<ul style="list-style-type: none"> <li>・大田区環境ビジョン2050に掲げるプラスチックごみゼロに向けて、プラスチック資源循環等、記載内容の拡充</li> </ul>
気候変動適応方針	気候変動適応法第12条に基づく「地域気候変動適応計画」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「適応方針」の「適応計画」への引き上げ検討</li> <li>・区の適応事業を体系化し、進捗管理を実施</li> </ul>
その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsの適切な反映、大田区環境ビジョン2050の具体化、新たに策定する長期基本計画との整合（令和6年度見込み）</li> </ul>

## 3 策定スケジュール



# (仮称) 第2次大田区環境基本計画策定について

資料 3

## ポイント①：環境課題の抽出

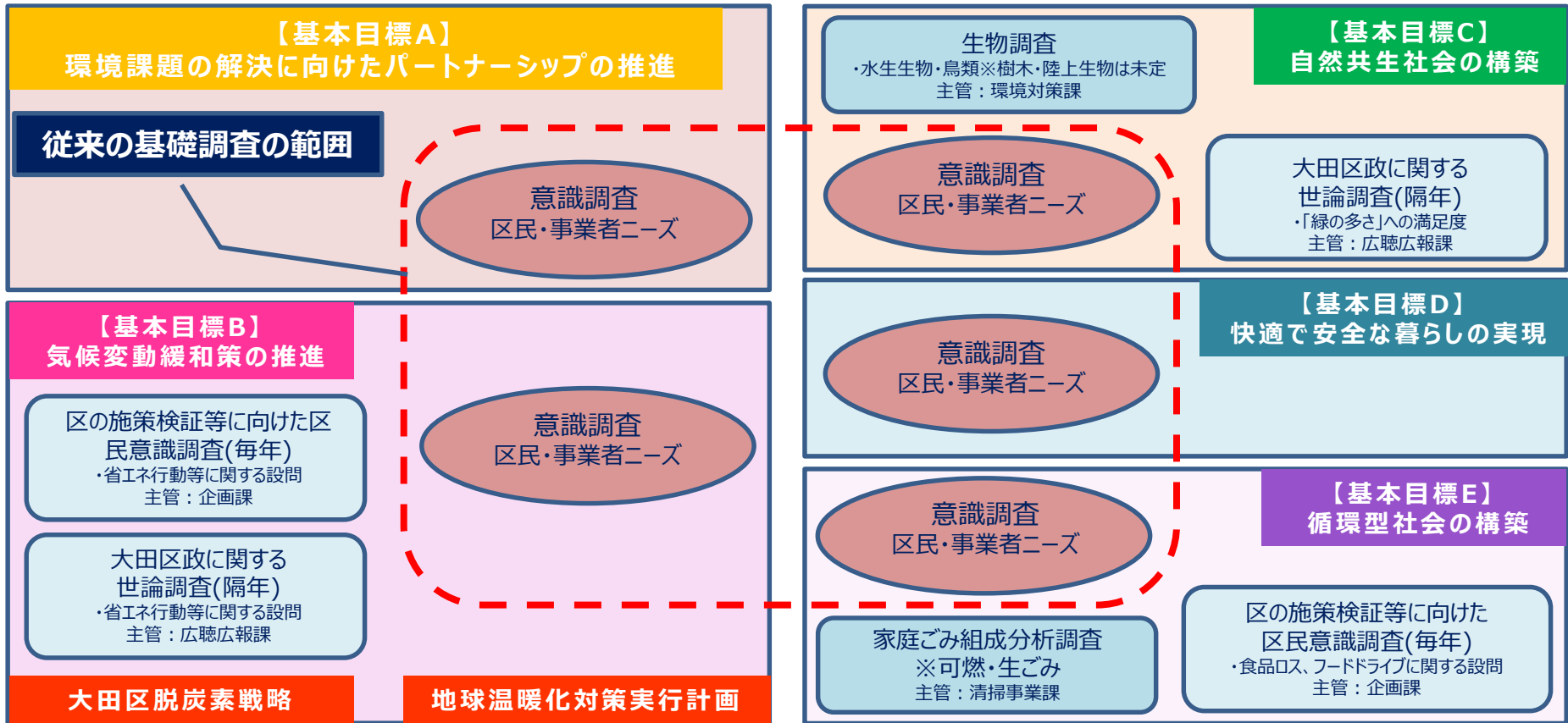
- ▶環境清掃部ワーキンググループの取り組みを通じて、現計画における課題抽出を実施した。(今後、関連部局にもヒアリングを実施予定)
- ▶業務委託により、基礎調査の実施結果等を踏まえ、施策体系の整理とあわせて課題に対する解決案を検討していく。

基本目標	あるべき姿(目標)		課題(=あるべき姿と現状のギャップ)
	2050年	2030年	
<b>基本目標共通</b>	<大田区が目指す環境像> 環境と生活・産業の好循環を礎とした持続可能で快適な都市(まち) <大田区環境ビジョン2050> 「2050年に向けた3つのゼロ」を通じた持続可能な環境先進都市おのたの実現		▶基本目標ごとに、2050年・2030年の目標を設定し、目指すべきゴールの整理。 ▶基本目標ごとに、進捗管理指標(KGI、KPI)を整理し、KGI(目標達成指標)に基づく計画進捗状況の見える化の検討。
<b>基本目標A 環境課題の解決に向けた パートナーシップの推進</b>	区民・事業者が持続可能なライフスタイルを自ら実践する社会 (※新技術の導入による新製品開発やインフラ整備等を含む)		▶区民・事業者の実態にあわせた柔軟な行動変容策(普及啓発講座・イベント等)の検討。 ▶啓発事業における情報発信の対象や手法の検討。 ▶区民・事業者等が主体的に取り組む仕組み作り。
<b>基本目標B 気候変動緩和策の推進</b>	ゼロカーボンシティ(脱炭素社会)の実現 (温室効果ガス排出量実質ゼロ)	カーボンハーフの実現(温室効果ガス排出量▲50%削減※2013年度比)	▶気候変動適応方針や大田区脱炭素戦略を包含し、整合性のとれた目標の検討。 ▶区内の太陽光パネルの設置状況等の現状把握。
<b>基本目標C 自然共生社会の構築</b>	まちの自然・生き物と区民が共生する社会 (区民が生物多様性の保全のため協働している)	自然共生を意識する機会を通して、生物多様性の大切さを理解する社会 (区民が生物多様性について理解している)	▶緑の保全、創出について、量の確保とともに質の管理の検討。 ▶生物多様性に配慮した暮らし方、働き方が必要。 ▶区の指標となる種や数量、調査頻度等の調査方針の検討。
<b>基本目標D 快適で安全な暮らしの実現</b>	・誰もが快適に過ごせる清潔で美しいまち ・区民満足度の向上や、個人と地域がともに活力に満ちた状態の実現	生活環境が保全されることで、安全安心の確保の実現	▶喫煙や街の美化に関する行動変容策の検討。 ▶環境基準未達成項目における環境改善対策の検討。(光化学オキシダント、道路交通騒音、水質) ▶臭気、水質関係の事故の対策を検討。 ▶区民が求める環境水準の現状把握。
<b>基本目標E 循環型社会の構築</b>	可能な限りごみを排出しない生活様式への転換 (CO <sub>2</sub> 排出実質ゼロのプラスチック利用、食品ロス実質ゼロ)	ごみの減量、リサイクルの推進 (プラスチック焼却量40%減※2017年度比、食品ロス発生量半減※2000年度比)	▶区民の分別・リサイクル意識の醸成。 ▶区内の食品ロス量や事業系ごみの現状把握。
<b>その他</b>			▶森林環境贈与税の活用方法の検討。 ▶雨水の活用(水の循環)方法の検討。

### ポイント②：基礎調査の実施

- ▶意識調査の内容を進捗管理指標や施策立案に繋げていく。
- ▶調査内容を整理し、必要性の高い調査は定期的の実施していく。

### <計画策定に関する調査の範囲>



## ポイント③：施策体系の検討

- ▶基本目標ごとに、2050年・2030年の目標を設定し、目指すべきゴールを明確にする。
- ▶基本目標ごとに、進捗管理指標（KGI、KPI）を整理し、KGI（目標達成指標）に基づく計画進捗状況の見える化を図る。

### <施策体系のイメージ> ※基本目標に変更がない場合

